

## ◆ 千代田都税事務所長賞 ◆

「被災地を支える輪「復興所得特別税」

千代田区立麴町中学校 3年 渡辺 啓太

自分の古い記憶のひとつに刻まれているのが、二〇一一年三月十一日の「東日本大震災」です。私はたった二才でしたが、感じた事のない大きな揺れに驚いて、祖父のいる和室に飛びこんだ事を思い出します。当時、私が住んでいた関東の小さな町では、計画停電により、真っ暗な夜に怯えた事もありました。しかし、小さく震えていた自分よりも、被災地にはもっと辛い思いをした親戚がたくさん住んでいることは後になって分かりました。

震災から十年以上経った昨年、私は実際に被害が酷かった宮城県の名取市閉上や南三陸町志津川に行きました。案内してくれた親戚は無事でしたが、知人は津波に流されて亡くなったという話を聞いて震えました。しかし、町は整備され、新しい建物が建ちつつあり、商店なども出ていて、活気を取り戻しているようでした。

しかし、何もかも奪っていった津波被害をここまで復興させるするには、人力だけでなくお金もかかるのではと思い、国はどんな支援をしているのか気になって調べたところ、「復興特別所得税」という税金があることを知りました。私たちの身近には「消費税」があり、これは未成年で学生の自分も払っているので、よく知られていますが「復興特別所得税」については、知らない人も多いのではないのでしょうか。

この税金は東日本大震災の復興に必要な財源を確保するための税金で、二〇一三年から二〇三七年までの二十五年間、私が二十八才になるまでの間、所得税額の二、一%を納めます。そうして集められたお金は主に、仮設住宅の提供、堤防や道路などの復旧、放射能汚染地域の除染などに使われるそうです。そしてこれらは被災地を支えるために、全国の人たち、東北と縁がない人たちも均等に支払っていると知り、大変感謝しました。

ここで取り上げた復興特別所得税は、さまざまな税金の中のほんの一部です。

「また税金が上がる」などの社会の声を聞くと負のイメージもありますが、税金は、私たちの暮らしに必要な施設や道路の建設や維持、また年金や医療など助け合いの一面を持っています。特に「復興特別所得税」については、めざましく再開発を遂げる東北の街を見て、日本の力が結集されたと改めて思いました。とはいえまだ福島第一原子力発電所の除染問題など解消されていないことがあるので、復興特別税が終わる頃には、解決されている事を祈っています。

今、自分より年下の人は東日本大震災以後に生まれたりして記憶がありません。でも記憶がある最後の世代として、これからも税金を支払うことで、被災地を支えていきたい、そして、東北を支えてくれた全国の皆さんにも困った時に、納税することによって支援していきたいという気持ちが強まりました。